

会議等名	平成 27 年度 第 2 回 海老名市総合計画審議会
日 時	平成 28 年 2 月 9 日(火) 10:30~12:00
場 所	海老名市役所 3F 政策審議室
出席者	<p>委員：桐生委員、吉水委員、並木委員、加藤委員、藤田委員、勝田委員、石川委員、内山委員 (欠席：新野委員、笹尾委員、清水委員、古谷委員)</p> <p>事務局：財務担当理事 清水 昭、 財務部長 秦 恭一、 財務部次長 鴨志田 政治、 企画財政課長 伊藤 修、 企画財政課政策経営係長 石田 恵美 企画財政課政策経営係主事 横溝 康太</p> <p>傍聴者：なし</p>
1 開 会	<p>秦 財務部長あいさつ 藤田 会長職務代理あいさつ</p>
2 議 題	<p>(1) 平成 28 年度実施計画 (案) について 海老名市第四次総合計画平成 28 年度実施計画 (案) に基づき、事務局から説明。 <質疑・意見等></p> <p>(委員) P.20 の感染症予防事業 (保健福祉部健康づくり課) の事業費が 10 千円であるが、事業費が少くないか。 →平成 28 年度の事業内容は①二類感染症等対策の実施と②新型インフルエンザ等対策訓練等の実施であり、感染症に関する情報発信や知識の普及が中心であることから、特段大きな支出はなく、事業費が 10 千円となっている。</p> <p>(委員) P.121 のふるさと納税推進事業 (財務部企画財政課) の事業内容に返礼品事業の実施とあるが、市では具体的にどのような返礼品を想定して本事業を実施するのか。 →都心部で積極的にふるさと納税制度の PR を実施すると、市内からの税流出が懸念されたため、これまでは積極的に事業展開してこなかったが、平成 26 年の 1 年間で約 1 千万円程度の税が流出していることから、本事業を実施するに至った経緯がある。本事業は歳入の確保と地域活性化を目的としている。返礼品については庁内で検討しているとともに、3 月中旬に返礼品協力事業者説明会を開催する予定である。現時点では具体的な返礼品は決まっていない。</p> <p>(委員) P.118 にイメージキャラクター活用事業 (市民協働部文化スポーツ課) とあるが、市ではイメージキャラクター「えび〜にゃ」の知名度を向上させるためにどのような取り組みを行っていくのか。 →所管課ではえび〜にゃを通じて市の PR を行っていくとともに、市内ではえび〜にゃを活用して市民に癒しを与えていく取り組みを展開していく。</p> <p>(2) 海老名市かがやき持続総合戦略 (案) 等について 海老名市人口ビジョン・総合戦略 (案) <概要版> に基づき、事務局から説明。 <質疑・意見等></p>

- (委員) P.4 の年齢別人口をみると、年少人口が年々減少していく中で、市では市内小中学校の統廃合を検討しているのか。
- 人口ビジョンで示すとおり、今後数年間は人口減少しないものと見込んでいる。ただし、対策を講じなければ、児童・生徒数は年々減少していくものと思う。今後は、人口ビジョン及び総合戦略の達成状況をみながら、児童・生徒数が大幅に減少していくようであれば小中学校の統廃合等についても議論していかねばならない。しかし、まずは市外からの転入を促進する取り組みを実施するとともに、海老名市で子どもを生み育てる環境づくりを行い、出生率を上げていきたい。
- (委員) 市内小中学校の1学級の生徒数について、教育環境を考えた場合、市独自で適正な生徒数を定める基準等を設けているのか。
- 国で基準を定めているとは思いますが、市では生徒に対して、きめ細かい指導ができるように1学級35人として、国の基準に上乘せする形で取り組んでいる。
- (委員) P.7 に産業別就業者の比率が示されているが、産業別就業者数は示されていない。比率だけでなく就業者数も示した方が良いのではないか。
- 本日、配布した資料は概要版であることから、就業者数を示す資料がないが、人口ビジョン本編には就業者数を掲載したいと考えている。
- (委員) 企業誘致について、市ではどのような取り組みを行っていくのか。
- 市には企業立地促進条例があり、一定の要件を満たした企業が市内に進出する場合には奨励金を交付するとともに税の減免措置を講じている。この条例は平成28年3月で期限切れとなるが、所管課ではこの事業を行ってきた実績や効果を検証していくこととしており、本条例については3年間延長する予定となっている。また、雇用の増大につながった場合には、奨励金を交付するといった従来の制度を拡充した条例を制定していきたいと考えている。特に製造業が進出してくると、雇用の増大につながることから、工業系企業の拠点となりうる地区を選定するために、平成28年度には所管課で調査を実施していく。
- (委員) 基本目標2（まちのかがやきを持続する拠点性を高める）の中に、「子育て世代や高齢者の視点に基づく」といった表現があり、これは弱者の立場でまちづくりを行っていくといった意味合いであろうと推察するが、障がい者の視点も加えるべきではないか。
- だれもが海老名市に住み続けられるような拠点性を高める必要があることから、このような基本目標を掲げているところではあるが、総合戦略では障がい者についての特別な記述はない。これは障がい者に配慮をしないといった意味ではなく、障がい者も含め、全ての人に対する拠点性を高める必要があるとの思いからである。
- (委員) 海老名市内在住の就労者の勤務先の内訳が分からない。市内在住で勤務先が市内の就労者数、勤務先が市外の就労者数等を示してはどうか。
- 概要版では示していないが、人口ビジョン本編では示すこととしている。
- (委員) 今後、海老名市をどのような位置付けにすることを想定しているのか。都心に勤める人々のベッドタウンとしていくのか、または、企業を誘致することで雇用を創出し、市内に住み、市内に勤める市内完結型とするのか。どちらに向かってまちづくりを進めていくかによって今後の取り組みが変わってくるものと思う。
- 海老名市の人口が急増した昭和40～50年代は東京、横浜に勤める人々のベッ

ドタウンとして位置付けられていた。しかし、今後はベッドタウンであるだけでなく、市内にも雇用を生み出していく必要があると考えている。従って、製造業の誘致を行っていききたいところである。市内に住み、市内で働くことが望ましい姿であると考えている。

(3) 平成30年度以降の総合計画について

資料に基づき、事務局から説明

<質疑・意見等>

(委員) 海老名市はいくつかの地域に分けることができ、個々の地域には長い間培ってきた文化が存在する。現在、市の開発事業や商業施設の多くは海老名駅周辺に集中しており、地域の文化や特性が失われつつあるように感じる。地域活性化の観点から言えば、小田急線の座間駅と海老名駅の間に新駅を設置することで、上今泉地区が活性化されるものと思う。

また、企業誘致が話題に出たが、上今泉周辺は地盤が強固で、企業の立地条件として良いのではないかと。

さらに、厚木駅のネーミングについて、古くから混乱を招くこととして知られているが、厚木駅の駅名を改める必要があるものと思う。

→確かに地域ごとに脈々と受け継がれてきた文化が存在すると思う。しかし、時代の変化とともに、田畑がマンションに変わり、徐々に地域のアイデンティティを守ることが難しくなってきたように思う。第四次総合計画には地域別計画があり、市内の各地域に出向き、声を聞きながら、計画を策定した経緯がある。今後も計画を策定するにあたり、地域に出向くことがあると思うので、地域住民として貴重な意見をいただきたい。小田急線の座間駅と海老名駅の間の新駅について、現時点で市は計画を持っていない。また、厚木駅の改名についても市の計画はない。いずれにしても、今後の計画策定の中で、地域の意見としてお寄せいただければと思う。

(委員) 10年間の計画が今の時代に妥当なものか否かが疑問である。第四次総合計画を延長することはおそらく妥当な選択ではないかと感じながらも、逆に総合戦略の期間に合わせて第五次総合計画を策定しても良いように感じる。10年単位で長期的な計画をたてるべきものと短期の計画をたてるべきものがあるので、期間の設定は重要であり、また、柔軟に考える必要がある。

→現在の第四次総合計画は基本構想が10年、基本計画が前期・後期で5年ずつ、そして年度ごとに実施計画を策定する三層で構成されているが、まずはこの三層構造が妥当か否かといったところから、次期総合計画の策定には取り組んでいきたいと考えている。

(委員) 海老名市には市営墓地がない。市外からの転入促進に取り組むのであれば墓地の確保も必要である。検討をお願いしたい。

(4) その他

特になし。

3 閉 会

以 上